

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)株式会社ケイティエフ新工場

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.4
Q1 室内環境			0.30		-	2.7
1 音環境		2.5	0.15		-	2.5
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40		-	
1.2 遮音		1.8	0.40		-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-		-	
1.3 吸音		3.0	0.20		-	
2 温熱環境		2.6	0.35		-	2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50		-	
1 室温		3.0	0.38		-	
2 外皮性能		3.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20		-	
2.3 空調方式		3.0	0.30		-	
3 光・視環境		2.3	0.25		-	2.3
3.1 昼光利用		2.8	0.30		-	
1 昼光率		2.0	0.60		-	
2 方位別開口		-	-		-	
3 昼光利用設備	ハイスайдライトの採用	4.0	0.40		-	
3.2 グレア対策		1.0	0.30		-	
1 昼光制御		1.0	1.00		-	
3.3 照度		3.0	0.15		-	
3.4 照明制御		3.0	0.25		-	
4 空気質環境		3.5	0.25		-	3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用している	4.0	1.00		-	
4.2 換気		3.6	0.30		-	
1 換気量		3.0	0.33		-	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積を居室床面積の1/15以上確保している	5.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-	
4.3 運用管理		2.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		1.0	0.50		-	
Q2 サービス性能		-	0.30		-	3.0
1 機能性		3.0	0.40		-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40		-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30		-	
1 広さ感・景観	事務室の天井高を2.7m確保し、窓を計画的に配置している	4.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース	休憩室を執務スペースの1%以上確保している	4.0	0.33		-	
3 内装計画		1.0	0.33		-	
1.3 維持管理		4.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	評価する取り組みの合計が6ポイント	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	評価する取り組みの合計が7ポイント	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位2種にB以上を採用し、Eは不使用	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		2.6	0.20		-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性		3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり		3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	3.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.40	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物のエネルギー性能評価		-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用		4.0	0.13	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.67	4.3	0.63	-	4.3
4 効率的運用		3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2:84%	3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音	3.0	0.33	-	-	
2	振動	3.0	0.33	-	-	
3	悪臭	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	